

医学系研究に関する情報公開および研究協力をお願い

彩の国東大宮メディカルセンターでは、当院の倫理・臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡ください。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意志であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心ください。

研究課題名 (研究番号)	急性期病院における大腿骨近位部骨折患者に対する骨粗鬆症治療の実施状況と薬剤師の取り組み(No.62)
研究責任者 (所属)	宮下 諒 (薬剤部)
研究実施期間	2022/6/1～2023/12/31
研究等の概要	【目的】 大腿骨近位部骨折後の骨粗鬆症の評価と治療を行うことは、再骨折を予防する上で重要である。彩の国東大宮メディカルセンター（以下、当院）では、2021 年度の手術後の骨粗鬆症治療実施率は 37.5%であった。骨粗鬆症治療の実施率を向上させ二次性骨折を予防するために、2022 年 6 月に骨粗鬆症リエゾンサービス（以下、FLS）を発足した。薬剤師は骨粗鬆症治療の有無を明確にし、骨粗鬆症治療を実施していない場合はカンファレンスで治療提案を行うこととした。そこで、当院 FLS 発足後の骨粗鬆症治療の実施状況の推移を報告する。 【方法】 2022 年 6 月 1 日から 2023 年 12 月 31 日までの期間に、当院で手術を受けた大腿骨近位部骨折患者 392 名を対象とした。入院前と手術後の骨粗鬆症治療実施率、骨粗鬆症治療薬の種類、骨粗鬆症治療薬を実施できなかった理由を調査した。 【結果】 手術後の骨粗鬆症治療実施率は 77.3%であり、2021 年度の 37.5%から大きく上昇した。入院前の骨粗鬆症治療実施率は 24.5%であり、ビタミン D 製剤が最も使用されていた。手術後に骨粗鬆症治療を開始した患者は 212 名(54.1%)、治療を変更した患者は 64 名(22.7%)、入院

	前治療を継続した患者は 64 名(16.3%)であった。骨粗鬆症治療薬は使用されていた順にデノスマブ、ビタミン D 製剤、ビスホスホネート製剤であった。骨粗鬆症治療を実施できなかった理由は認知症や低 ADL、歯科トラブルなどであった。 【考察】 薬剤師が骨粗鬆症治療の有無を明確にしたことで、多職種が骨粗鬆症治療を意識した取り組みを行い、骨粗鬆症治療実施率の向上に繋がったと推察する。さらに、薬剤師の介入により「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2015 年版」で推奨されるデノスマブの導入に繋がり、治療すべき患者に強度の高い治療を導入することができた。 今後は、骨粗鬆症治療の治療継続率について調査し、治療継続率の向上に取り組みを広げたい。
個人情報の取扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者さんを直接特定できる個人情報は削除いたします。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。
問い合わせ窓口	倫理・臨床研究審査委員会 臨床研究事務局 電話：048-665-6111(代表)